

高大接続アクティブ・ラーニング研究会（2021）

The Association of Active Learning in High School/University Connection 2021

共同研究メンバー

○小西英行*、金 美徳*、谷川貴信**、出岡由宇***（○代表、執筆者）

キーワード：高大接続、アクティブ・ラーニング、課題解決型学習

Keywords：High school/university connection reforms, Active learning,
Problem solving ability

1. 高大接続アクティブ・ラーニング研究会をめぐる現状と課題

多摩大学では、2016年より、附属・系列の目黒中学高等学校、聖ヶ丘中学高等学校と連携して高大接続ALプログラムを展開している。コロナ禍で教育機関の多くがオンライン中心に展開された2020年度においては、これらの高大接続ALプログラムの多くもオンライン中心の実施となったが、2021年度においては、すべてのプログラムが完全対面方式で展開された。こうして5年余りの期間に実施してきたプログラムはのべ30を超え、高大接続アクティブ・ラーニング研究会では、これらの附属・系列の中学高等学校と実施してきたプログラムの成果を発表する場として、初年次教育学会のシンポジウムと併催する形で、「アフターコロナに向けた高大接続教育～持続可能なプログラム形成に向けて～」を2022年9月5日に多摩大学において開催した。

このシンポジウムにおいては、他の先進的な高大接続プログラムの事例として、湘南工科大学学長木枝暢夫氏から、「湘南工科大学附属高等学校技術コース～高大一貫7年教育を目指す取り組み～」を、共愛学園前橋国際大学学長大森昭生氏から、「高大接続は大学教育改革から～探究・社会に開かれた学び・カリキュラムマネジメントを見据えて～」を報告頂いた。高大接続は、入試改革を起点に、教育改革と学校経営改革を三位一体として実施することにその本質があるが、いずれの報告も、まずは「教育改革」がしっかりと行われ、その成果を社会に問うプロセスの中で、入試改革と経営改革を実現しているところに共通点がある。

多摩大学経営情報学部では、2023年度入学生向けに、「より体系的な学修を可能にする新カリキュラムを編成する予定であり、高大接続ALプログラムを、附属・系列の中学高等学校以外に広げていくためには、「教育改革」の成果を、近隣の中学高等学校を含めて広く情報提供していくことが重要である。

* 多摩大学経営情報学部 School of Management and Information Sciences, Tama University

** 多摩大学目黒中学校・高等学校 Meguro High School, Tama University

*** 多摩大学附属聖ヶ丘中学校・高等学校 Hijirigaoka High School and Junior High School, Tama University

2. 高大接続アクティブ・ラーニング研究会の研究方法与対象

高大接続アクティブ・ラーニング研究会では、研究活動として、(1) 高大接続 AL 研究会（FD 勉強会）、(2) 高大接続先進事例調査、(3) 実践活動としての中高大連携プロジェクト（附属・系列の多摩大学目黒中学・高等学校、及び多摩大学聖ヶ丘中学・高等学校と連携）を実施した。

3. 研究活動の成果

「高大接続アクティブ・ラーニング研究会」の、2021年4月～2022年9月までの18カ月間の研究活動の成果は、以下の通り。(1) 高大接続 AL 研究会は3件、(3) 実践活動としての中高大連携プロジェクトは3件、企画運営された。(2) 高大接続先進事例調査としては、コロナ禍における他大学における高大接続 AL 研究会の実践と課題について、ヒアリングを行うとともに、外部のオンライン研究会に毎月参加することで、コロナ禍やオンライン下での高大接続 AL プログラムに関する情報収集に努めた。

<研究活動>

(1) 「高大接続 AL 研究会」（担当：小西、金、谷川、出岡）

[1] 2021年8月25日（水）13：00～15：00

「高大接続 AL プログラムの成果と課題 ～地域連携型高大接続に向けて～」

多摩大学聖ヶ丘キャンパス 201 教室（ソーシャルディスタンス定員 130 人）

参加者：多摩大学経営情報学部教職員、多摩大学目黒中学・高等学校教員、多摩大学聖ヶ丘中学・高等学校教員、東京都立片倉高等学校教員、東京都立調布南高等学校教員、東京都立松が谷高等学校教員

1. 研究会概要（研究会事務局）

2. 基調報告：地域連携型高大接続に向けて（担当：小西教授）（20分）

3. 報告&討議

① 経営情報学部 & 多摩大学目黒中学・高等学校連携プログラム

● 濟州平和フォーラム（アジア版ダボス会議）スタディ・グループ

● 投資戦略スタディ・グループ ● 起業体験スタディ・グループ

● プログラミング・スタディ・グループ

➢ プログラム全体説明（20分）：多摩大学目黒中学・高等学校：谷川教諭

➢ 各プログラム、担当多摩大学教員報告（各10分）

➢ 濟州：趙教授、投資：下井教授、起業：松本教授、プロ：出原教授

② 経営情報学部 & 多摩大学聖ヶ丘中学・高等学校連携プログラム

● 濟州平和フォーラム（アジア版ダボス会議）スタディ・グループ

● 有機農業プログラム ● 聖ヶ丘高校「A知探Qプログラム」

➢ プログラム全体説明&プログラム報告（20分）：多摩大学：小西教授

➢ 多摩大学聖ヶ丘中学・高等学校「A知探Qプログラム」報告：多摩大学聖ヶ丘中学・高等学校：出岡教諭

③ 討議

4. 総括（金 美徳アクティブ・ラーニングセンター長・教授）（5分）

〔2〕2022年3月9日（水）13：30～15：00

「聖ヶ丘中学・高等学校と経営情報学部における教育改革の現状と課題」

多摩大学聖ヶ丘キャンパス 201 教室（ソーシャルディスタンス定員 130 人）

参加者：多摩大学経営情報学部教職員、多摩大学目黒中学・高等学校学校教員、多摩大学聖ヶ丘中学・高等学校学校教員

1. 冒頭挨拶
2. 中高改革概要の発表（10分程度）
3. 大学改革概要の発表（10分程度）
4. グループディスカッション①「それぞれの改革に対する疑問・提案」（15分）
5. グループディスカッション②「改革によって上位層をどう引き上げるか」（15分）
6. ファシリテーターによる全体のまとめ（10分）
7. 閉会挨拶

〔3〕2022年9月5日（月）15：40～17：40

「アフターコロナに向けた高大接続教育～持続可能なプログラム形成に向けて～」

・初年次教育学会大会校企画シンポジウムと併催

○事例報告・総括討論

趣旨説明：小西英行（多摩大学）

報告1「湘南工科大学附属高等学校技術コース

「高大一貫7年教育を目指す取り組み～」木枝暢夫（湘南工科大学）

報告2「高大接続は大学教育改革から～探究・社会に開かれた学び・カリキュラムマネジメントを見据えて～」大森 昭生（共愛学園前橋国際大学）

報告3「探究は、教員が楽しむことからはじめよう

～A 知探Qの夏から、多摩聖独自の探究カリキュラムまで～」出岡由宇（多摩大学聖ヶ丘中学・高等学校）

(2) 高大接続先進事例調査（担当：金、小西）

- 高等教育問題研究会 FMICS2021年4月例会（第737回：2021.04.23）参加
 - テーマ：学生の視座からコロナ禍の先を観る PART1 学生に選ばれる輝く大学・学校を作るために何をしたらよいか 高大接続から高大社接続へ
- 高等教育問題研究会 FMICS2021年5月例会（第738回：2021.05.21）参加
 - テーマ：企業人の視座からコロナ禍の先を観る PART2 大学は企業が欲しい超優秀な学生を育てられるのか
 - 「日本における、ジョブ型雇用制度に対応した大卒人材とは」～多摩大学のジョブ型人材育成コース新設の試みから～（報告：小西英行）
- 高等教育問題研究会 FMICS2021年6月例会（第739回：2021.06.23）参加
 - テーマ：わたしはコロナ禍の先を観る PART3 輝く大学を作るためにわたしたちは何をしたらよいか～未来を切り拓くため私たちはチャレンジと失敗を束ねます～

- 高等教育問題研究会 FMICS2021 年 7 月例会（第 740 回：2021.07.21）参加
 - テーマ：語り合おう コロナ禍の先を観る 大学の未来を担う可能性の学生を元気元気元気にする
- 高等教育問題研究会 FMICS2021 年 8 月例会（第 741 回：2021.08.25）参加
 - テーマ：語り合おう コロナ禍後の大学入試 PART3 ～ 高校と大学の間になだよう★モヤモヤ★は消せるのか～
- 高等教育問題研究会 FMICS2021 年 10 月例会（第 743 回：2021.10.21）参加
 - テーマ：地方の大学の試みから学ぶ PART2 ～ 個性を活かせ！総花主義・平均主義・単独主義からの脱却～
- 高等教育問題研究会 FMICS2021 年 11 月例会（第 744 回：2021.11.19）参加
 - テーマ：大学淘汰の時代に見直すキャンパス・ファシリティ～ 大学に通ってみて感じる“無駄”“施設への要望”を語り合おう～
- 高等教育問題研究会 FMICS2022 年 1 月例会（第 746 回：2022.01.20）参加
 - テーマ：激変する時代を THINK BIG に観る 政策環境の変化と大学・文部科学省の将来
- 高等教育問題研究会 FMICS2022 年 2 月例会（第 747 回：2022.02.18）参加
 - テーマ：企業が欲しがると人材を輩出する大学 活躍できるのはこんな力をもった人材
- 高等教育問題研究会 FMICS2022 年 3 月例会（第 748 回：2022.03.14）参加
 - テーマ：学び続けてきたことをカタチにする 建学の精神をブランド化する 大学史・沿革史・自校史編纂の意義
- 高等教育問題研究会 FMICS2022 年 4 月例会（第 749 回：2022.04.22）参加
 - テーマ：コロナ禍をプラス発想する part1「今」のキャンパス 対面授業とオンライン授業
 - 「アフターコロナの対面授業」～オンラインによる補完・代替～（問題提起：小西英行）

(3) 中高大連携プロジェクト

- ①「プログラミング・スタディ・グループ」（担当：出原教授）
 - ・プログラミング言語「Python」を「TOPSIC」を用いて学び、PG-BUTTLE に挑戦
- ②「投資戦略スタディ・グループ」（担当：下井教授）
 - ・日経 STOCK リーグへ参戦
- ③「起業体験スタディ・グループ」（担当：松本教授）
 - ・ビジネスグランプリに参加。高校生ビジネスプラン・ベスト 100 に入選。

参考 URL

・ FMICS（高等教育問題研究会）：<http://www.fmics.org/index.htm>